

**2020年度(令和2年度)**

**自己評価報告書**

**学校法人 東北外語学園  
東北外語観光専門学校**

## ■2020年度（令和2年度） 自己評価について

本校では、学生等が関係業界等のニーズを踏まえたより質の高い職業教育を継続的に享受していけるように、学校運営の改善を目指し学校自己評価を行いました。評価にあたっては、文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考に実施しております。この自己評価の結果を活用し、さらなる教育活動並びに学校運営等の質の向上に努めてまいりたいと考えています。

1. 対象期間：2020年（令和2年）4月1日 ～ 2021年（令和3年）3月31日

### 2. 実施方法

- (1) 実施時期：2021年5月
- (2) 実施回数：年1回
- (3) 実施体制：校長を中心に教職員で自己評価を行っております。
- (4) 評価結果の公表方法：当該報告書を本校ホームページに掲載して公表

### 3. 自己評価の項目

自己評価は、以下の10項目について実施しております。

- (1) 教育理念・目標
- (2) 学校運営
- (3) 教育活動
- (4) 学修成果
- (5) 学生支援
- (6) 教育環境
- (7) 学生の受入れ募集
- (8) 財務
- (9) 法令遵守
- (10) 社会貢献・地域貢献
- (11) 国際交流

評価項目の達成および取組状況

(1).教育理念・目標

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	学校の理念・目的・育成人財像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④	3	2	1
②	学校における職業教育の特色は何か	④	3	2	1
③	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④	3	2	1
④	学校の理念・目的・育成人財像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	④	3	2	1
⑤	各学科の教育目標、育成人財像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④	3	2	1

■状況、課題、改善策について

- ① 「欧米等の語学に関する専門教育を施し、高度な語学力と豊かな国際感覚を養うとともに、あわせて一般教養の向上をはかり社会の発展に寄与する有為な人材の養成をはかる」(学則)に基づいて、各専門分野の特性について定められており、それをパンフレット等で明確にしている。めまぐるしく変化していく世の中に柔軟に対応することができる職業人に求められる能力を養成するために、今後も指導内容、指導方法に工夫を重ねていきたい。
- ② 国際化する社会に対応できる職業人を養成するため、どの学科においても、外国語科目は必修として、語学力の継続的向上を可能とするカリキュラムを編成している。また、すぐれた職業人になるための様々な素養を身につけられるように、キャリアガイダンスの授業を全学科に通年制の科目として設けている。
- ③ ユニバーサル学科として位置付ける「ビジネスデザイン科」を令和2年度開設し、また、同様の趣旨で、令和4年度には「国際コミュニケーション科」を新設する。これらの学科は、自立進学を可能とすることによって、より多くの人に対して専門学校への門戸を開放することを目的としたものである。今後も時代の要請に応えられる学科編成を構築していきたい。
- ④ ホームページ、学校紹介パンフレット等の作成にあたっては、学校の理念・目的・育成人材像などをわかりやすく伝えるように配慮している。また、オープンキャンパス、入学相談会などの機会に、本校職員、在校生から直接話を聞いてもらうことによって、学生・保護者等に本校の特色をよりよく知ってもらうようにしている。
- ⑤ 絶えず業界のニーズに注意を払い、学科等の編成はもちろん、各学科のカリキュラムについても検討を重ねながら、改善を図っている。

(2).学校運営

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
②	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1
③	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④	3	2	1
④	人事、給与に関する規定等は整備されているか	④	3	2	1

⑤	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④	3	2	1
⑥	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④	3	2	1
⑦	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	③	2	1
⑧	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④	3	2	1

#### ■状況、課題、改善策について

- ①② 理事会で承認された事業計画をもとに毎年運営方針を策定している。運営方針及び事業計画は、学校法人の全職員を対象として職員会議等の機会により周知している。
- ③ 学校運営に関する組織は整備されており、必要に応じて部門間で意見交換の上、適正に判断し業務を遂行している。今年度からスタートした「ビジネスデザイン科」はユニバーサル型学科として独立させ運営した。
- ④ 現在の学校運営の状況に対応するため規程の整備を行った。特に年休制度については「学園年休」「疾病休暇」の制度を独自で整備し、急な休みにも対応できるよう配慮している。
- ⑤ 意思決定については学園の規程において定められている校務分掌、職務権限に従って行われ、有効かつ効率的に運営されている。各部門ごとに、校務分掌表を作成し、担当する業務を明確にしている。
- ⑥ 学校として法令や基準等で確認が必要な場合は、宮城県担当者に随時問い合わせ、適切に対処している。また随時専門家等に相談し、学校法人として基本的なコンプライアンス体制は整備されている。
- ⑦ 各種学校行事の活動状況や学科毎の教育活動・成果については、ホームページで情報公開を行っている。
- ⑧ 今年度はコロナの影響でオンライン授業を行うため、Zoom会議システムの導入を行った。その結果授業を中止することなく規定の回数を実施することができた。

#### (3)教育活動

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	③	2	1
②	教育理念、育成人財や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	③	2	1
③	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
④	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	③	2	1
⑤	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	③	2	1
⑥	関連分野における実践的な職業教育(産学連携におけるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4	③	2	1
⑦	授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1
⑧	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	③	2	1
⑨	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
⑩	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1

⑪	人材育成目標の達成に向け事業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	③	2	1
⑫	関連分野における業界等の連携において優れた教員(本務・兼務を含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	4	③	2	1
⑬	関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	4	③	2	1
⑭	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	3	②	1

#### ■状況、課題、改善策について

- ① ホームページなどで教育理念がもう少しわかりやすく表示されているとよい。
- ② 学科ごとに必要な知識・目標の到達時期がずれているため、柔軟に対応するための学修時間を確保したい。
- ③ 取得目標資格、検定に効果的に対応できるよう学年学科毎に編成を行った。1年生は英検2級以上を取得目標とし、2年生はTOEICスコアの向上を目標としている。
- ④ 実技を通して実践的な授業を実施、職業意識をもたせるカリキュラムを作成をしている。
- ⑤ 各学科で各関連分野での企業との連携、実習等を企画し実施をしている。
- ⑥ 特定の科目と専攻では実習を行っているが、実技や実習の機会を増やし実践的な能力を養うことで進路選択へも繋げられるとよいと思う。
- ⑦ 全科目で授業アンケートを実施し、担当講師にも結果をフィードバックしている。
- ⑧ 学校関係者評価委員会などで学校評価を行っている。
- ⑨ 判定基準は明確である。
- ⑩ 英検とTOEICに、目標級、目標スコアの取得に向けて指導している。学生の級やスコア毎に合わせたクラスを設定し学生一人ひとりの習熟度にあった環境を整えている。
- ⑪ 非常勤講師も含め各業界の経験者などで業界の専門知識を備えた教員による授業を行っている。
- ⑫ 一部連携企業より講師を派遣してもらい、現状の業界の知識、実際の現場の知識を習得できるカリキュラムを組んでいる。
- ⑬ 知識や技術などを習得するための研修を受講できる機会は少ない。
- ⑭ 今年度はコロナの影響もあり研修等の機会がなかったが、令和3年度は外部の研修ほか学内での研修会を実施する。

#### (4)学修成果

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	就職率の向上が図られているか	4	③	2	1
②	資格取得率の向上が図られているか	4	③	2	2
③	退学率の低減が図られているか	4	③	2	3
④	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	③	2	4
⑤	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	③	2	5

■状況、課題、改善策について

- ① コロナ禍における就職活動の冷え込みもあり、厳しい状況であったが就職率90%以上を達成することができた。
- ② コロナの影響による受験率の低下が見られた。学年による推奨資格を明確にし、合格率アップへつなげたい。
- ③ 退学者数は減少した。引き続き本人の意思も尊重しながら保護者とも情報共有をし、精神的なサポートを強化していきたい。
- ④ 限定的であるが企業の担当者または本人からの報告により一部の卒業生については把握できている。今後企業ごとの卒業生の状況を作成し、毎年更新していきたい。
- ⑤ 卒業生が来校した際、職場の様子等をヒアリングし教育活動の改善に活用しているが、全体としてのシステムはまだ整っていない。卒業後のキャリア形成への効果の把握や教育活動の改善のための取り組みが課題である。

(5).学生支援

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
②	学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
③	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④	3	2	1
④	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④	3	2	1
⑤	課外活動に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
⑥	学生の生活環境への支援は行われているか	④	3	2	1
⑦	保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1
⑧	卒業生への支援体制はあるか	4	③	2	1
⑨	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	④	3	2	1
⑩	高校・高等専修学校等の連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	④	3	2	1

■状況、課題、改善策について

- ① 担任が就職、進学指導の窓口となっており、講師とともに自己分析、履歴書作成指導、模擬面接指導を行っている。また進路指導室では求人情報の取りまとめと学内企業説明会、学内就職セミナーを行っている。
- ② 担任制を採用し、定期的に学生と面談を行い学習、健康、生活面での相談を行っている。なお特に対応が難しい精神的な問題には、臨床心理士などの専門家をスクールカウンセラーとして配置し担任と連携して相談にのっている。不登校の学生へのカウンセリングも行っている。
- ③ 高等教育の修学支援新制度に関する確認申請を行い、対象校となったことで今後は経済的に困窮している学生に対してこれまで以上に支援ができると考えている。また引き続き日本学生支援機構の奨学金制度、入学時の学費サポート制度、2年次特待生、学費の延納・分割納入など様々な側面から経済的に支援する制度も継続していく。また低学費の学科新設により、学生の「学びたいをあきらめさせない」環境を作っている。

- ④ 毎年定期的に学生の健康診断を行っている。保健室も常備し、カウンセラーも配置して精神面の相談もできる体制を整えている。
- ⑤ 放課後、希望の学生を対象に定期的に行っているゼミなどを支援している。
- ⑥ 学校の近くに学生寮を設置している。ここでは寮監が常駐し、学習面や生活面から進路の相談まで幅広く対応している。
- ⑦ 保護者には前後期の期末試験後、各科目の成績・出席状況を発送し、学習面・出席面について伝えてい  
る。また保護者宛に就職情報などを送付し就職支援のお願いをしている。また体調不良や悩みによる不登  
校生の保護者には、随時担任が報告や指導をお願いし、改善に向けた連携を行っている。
- ⑧ コロナにより同窓会総会の実施を見送ることとなった。
- ⑨ 社会人のニーズを踏まえた学科として「1年専科」を開設し、社会人経験者がまず1年間勉強し、継続して学  
習を続けたい場合は2年次に転入できるなどの制度を設けている。また幅広い学びの場を提供する「ビジネ  
スデザイン科」を開設した。
- ⑩ コロナ禍における高校生へのキャリア教育推進のため職業理解の模擬授業をはじめ、各種ガイダンス等  
へ参加は減少したが、オンラインでの実施を行った。

## (6).教育環境

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように設備されて いるか	4	③	2	1
②	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分 な教育体制を整備しているか	4	③	2	1
③	防災に対する体制は整備されているか	④	3	2	1

### ■状況、課題、改善策について

- ① OA教室のOSとOfficeの更新を行ったが、パソコンの老朽化に伴い不具合が発生することが多かった。これ  
については、IT専属の職員を採用し対応を行った。また新型コロナウイルス感染症対策として今後の授業  
運営のあり方を見直し、R3年度より必携PC制度の導入を決定した。さらにWi-Fi環境を整備し、ネットワー  
クを使用した授業ができる教室も年々増加させている。オンライン授業になった場合でも教育効果があげら  
れるように努めていきたい。
- ② 学内のエアライン実習、トラベル実習室等を整えて実践的な教育を行っているが、各学科の校外でのイン  
ターンシップや企業実習はコロナの影響で中止または延期を余儀なくされた。
- ③ 大規模の地震を想定した避難マニュアルを作成し、年に2回避難訓練を行うようにしている。内容は災害対  
策本部の設置、避難経路及び誘導手順の確認、校舎の自衛防衛組織の体制作り等である。特に本校では  
留学生が多いのでいかに留学生を迅速に誘導できるかが課題である。

## (7).学生の受入れ募集

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2	1
②	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2	1
③	学納金は妥当なものになっているか	④	3	2	1

■状況、課題、改善策について

- ① 毎年開催している来校型のイベントに加え、オンラインでの説明会を積極的に導入し、参加者にきちんと本校の特徴、学科概要、カリキュラム等を伝えることを心掛けている。また、来校型のイベントでは、大ホールなど広い会場を使用し、密を避けて実施。検温・消毒などガイドラインに基づいた運営を行い、参加者の不安を少しでも減らせるよう努めている。また、イベントでは個別相談の時間を設けるようにし、一人ひとりの希望・状況に合わせたアドバイスを行い、他の学校とも比べてもらった上で、納得した進路決定をしてもらえるよう工夫している。
- ② 教育成果については、主に「学校紹介パンフレット」「本校ホームページ」「各種イベント」等を通じて伝えており、より理解しやすい内容・表現方法を考え、日々更新している。そこには、在校生の授業・実習・資格取得・学生生活・就職活動などのリアルな情報を積極的に取り入れるようにし、また、オープンキャンパスなどのイベントでは、学生スタッフとして在校生にも参加してもらい、座談会などを通じて直接情報を提供できる場を設けている。宮城県外の方などは、中々来校ができない状況も続いているため、ホームページなどコンテンツの充実を進めていきたい。
- ③ 修学支援新制度の趣旨を踏まえ、本校に入学を希望する学生が、経済的な理由で進学をあきらめることがないようにするため、年間学費が55万円・分納制で自立進学を可能とする「ビジネスデザイン科」を新設した。初年度ではあったが定員を満たす学生が入学しており、今後ますます増加傾向にあることを実感している。R3年度は新型コロナウイルス感染症の影響でさらに家計急変者の増加も見込まれることから、「国際コミュニケーション科(年間学費が55万円・分納制)」を新設することで「学びたいをあきらめさせない学納金」を確立させ、進学希望者の必要性に応えていきたい。

(8).財務

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	③	2	1
②	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
③	財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1
④	財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

■状況、課題、改善策について

- ① 中長期的に学校の財務基盤は安定している。今後も学生数の確保を図り、健全な財務体質を維持していく。
- ② 予算・収支計画については前年度の実績を基にして法人本部、学校、部門の間での検討、調整を行って編集し、前年度末に評議委員会に諮り、理事会の承認を得ている。執行状況については定期的にチェックし、確実な執行を目指している。
- ③ 会計監査は関連法規により監査法人及び監事により適正に行われている。
- ④ 私立学校法により閲覧に供することが義務付けられている事業報告書及び財務情報についてはホームページに公開している。

(9).法令等の遵守

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	法令、専修学校設置基準などの遵守と適正な運営がなされてるか	4	③	2	1
②	個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか	④	3	2	1

③	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④	3	2	1
④	自己評価を公開しているか	④	3	2	1

■状況、課題、改善策について

- ① 設置基準の遵守については適正に行っている。昨年度不備があった就業規則関係も専門家の指導により修正を行った。
- ② 個人情報保護に関しては「個人情報への取り組み」(個人情報保護方針)を定め、適正な保護の実現を行っている。
- ③ 昨年度より自己評価委員会を立ち上げ、その後の学校関係者評価まで実施している。それに基づき問題点の改善に努めている。
- ④ 自己評価の結果については「学校自己評価報告書」としてホームページによる公開を行った。

(10).社会貢献・地域貢献

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	③	2	1
②	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	③	2	1
③	地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4	3	②	1

■状況、課題、改善策について

- ① 各種検定の試験会場を提供した
- ② 定期的に学生ボランティア活動の案内を出し、希望者を募っているが、コロナ禍による実施の見送りがあった。
- ③ 受け入れは行っていない。

(11).国際交流

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	4	③	2	1
②	留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているのか	4	③	2	1
③	留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	④	3	2	1
④	学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4	③	2	1

■状況、課題、改善策について

- ① コロナ禍の中で、学生の確保が通常より難しかった。主に日本語科の海外より入国しなければならない学生に関しては、過去に受け入れた学生のレベルに基づき、提携する留学センターを厳選するようにした。その結果、複雑な入国手続きについても留学センターに協力していただき、円滑に準備が進み、希望者全員が入国できた。また、日本在住の留学生向けの専門課程に関しては募集数を拡大し、全体の学生数を確保した。
- ② 留学生の受け入れ、在籍管理については入管の指示通りに手続きを行った。今後は退学者・除籍者数が増えないように、成績と出席率に関する指導を徹底したい。また、コロナの影響により、各国現地での面接選考、書類の原本の審査ができなかった。コロナが収束するまで、留学生の受け入れにおいては、真に修学を目的としている学生を選別することが今後の課題であり、提携先の留学センターとより一層深い連携をしなければならない。
- ③ 教職員全員体制で出欠管理にかかわることとし、学習指導、生活指導を重層的に行い、きめ細かな指導を行うことによって、学習意欲の維持、健康の管理、規則的な生活を送ることができるように指導している。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で1カ月程度オンライン授業を実施した。資料の見せ方を工夫したり、グループワークを取り入れたりすることで、学生から高い評価を得ることができた。入国が遅れた日本語科の10月入学生に対しては、授業時間数を通常1日4時間のところ6時間に増やし、課題も組み込むことで規定のカリキュラムを終えた。余裕のないスケジュールとなったが、短期間に効率よく進めることで、学習効果を高めるメリットもあった。アルバイト、就職については、専任の職員を配して指導に当たっているが、国際総合ビジネス科の就職はコロナ禍で厳しい結果となった。今後は「キャリアプランニング」の授業で早期から進路意識を向上させ、個別に具体的な指導を行い、進路決定率を上げることを目指していく。また、検温や換気、共用部の消毒等を徹底し、安心して授業を受けられるよう環境整備にも努めている。
- ④ 日本語学習の成果を発表する場として、日本語科生のみによる「スピーチ大会」、日本人と合同で主に専門課程の学生が参加する「スピーチコンテスト」を今年も実施した。また、ホームページ等において随時学校行事等の紹介を行い、学外へ発信することに努めている。また、社会で活躍している卒業生の様子を掲示等で紹介したり、スピーチを依頼したりした。